



移住は人生の選択。
悩むぐらいならやめちゃいな。

孫野菜 代表

有政雄一 (47)



ありがとうございます

株式会社まごやさい 代表取締役。1968年生まれ。安芸高田市出身。中学進学に伴い親元を離れ、広島市内で下宿。大学卒業後リクルートグループや新興企業のキャリアカウンセラーとして、人材教育分野で活躍。2009年にUターン。農業体験事業・野菜販売事業を相次いで興す。平成25年ひろしまベンチャー育成基金金賞受賞。



「孫野菜」とは、じいちゃん・ばあちゃん
が孫のために手間を厭わず作った野菜、
の意。近所の農家が作ったものを近郊
都市（広島）へ送ることで、新鮮な野菜
をローコストで流通させている。工夫
を凝らしたシステムは評判となり、周
辺自治体からの視察が絶えない。野菜
を入れてくれる農家は現在40軒、半年
で倍増している。

東

京のベンチャー企業で活躍していたが、子供たちに「ふるさと」を作りたいと思い、2009年Uターン。農業の経験はゼロだったが、農作業が生き抜く力を育むプログラムになるという可能性を感じ、農業・里山体験事業を創める。採れた野菜を参加者へ送り届けるうちに、野菜販売の可能性に気がつき事業化。新しい野菜の流通モデル「小規模農家ネットワークによる近距離野菜販売事業」で成長を続けている。

「そんな有政さんに『田舎でナリワイを興すこと』について伺った。都会と田舎の違いは？」

「都会での人のつながりは『機能』がメインですよね。この人とはこういう協力ができるとか、こんなメリットがあるとか、利でつながることが多い。それに対してこちらは『マイノド(志)』。お前がやるなら力を貸すよ…っていう気持ちのつながりです。広島の人々が特にそうなのか、面倒見のいい方ばかりでたくさんの人にお世話になってきた」と言っ。

また感じるストレスが違う。

田舎で起業するコツは？

東京にいた頃は日々の生活そのものにストレスを感じ、週末に遊ぶことが多かった。一方、田舎では生活の中に自然がある。山菜も果樹もキノコも季節になれば採りに行くのが当たり前の暮らし。生活そのものがレジャーのようで、わざわざリフレッシュに出かけずとも充実した日々が過ぎている。また渋滞や行列も少ないため、そもそもストレスを感じる事が少ないようだ。

「まずは『警戒される』ってことを知っておくこと」。田舎には田舎の不文律がある。すれ違えば挨拶する・雑草ははびこらせない・集落行事には協力する…自然を敬い、力を合わせて暮らしていく知恵だ。そうやって守ってきた暮らしがあるから、それがわからないヨソ者を警戒する。だから、そのしきたり・考え方・心情を理解することが大切だ。また「わからないことは聞く」という姿勢も大事である。聞きにいけない場合は喜んで教えてくれて、たいてい味方になってくれる。

「それから、地元の寄り合いで自分のやりたいことを説明することもお勧めです」。田舎では地元のことを決める会が定期的に行われており、そこで新たに来た人の紹介などもあるという。「僕の場合は農業体験がただの遊びみたいな感じにしか理解してもらえず、初めは文句も言われました。それでも僕が何者なのかを一度に地元の皆さんに理解してもらえたのは大きかったと思います。実際、協力したいという人も出てきましたね。そのうち、週末に子供がたくさんやってきて賑やかになると文句は減り、近隣農家の野菜を集めて販売するようになってから文句は一切なくなった(笑)」。

移住を考えている方へ

最後にメッセージをお願いします。しばらくの沈黙の後、耳を疑う答えが返ってきた。

「『悩むくらいならやめなさい』ってことですね。ほとんどの人は今の暮らしに疑問を抱いたり、不安や不満があつて次のステージとして移住を考える。しかし悩んでいるだけでは人は動かないから、悩むだけ時間がもったいない。もし行動ができないなら今の

場所での仕事を一生懸命やった方がいい。Uターンは人生の選択。悩むぐらいならリスクが大きいからしない方がいいですよ。とても辛辣な内容だが、カラッと明るい口調で続けてくれた。「何のために移住するかがハッキリしないなら今はそのタイミングではないんだと思います。逆に目的がハッキリすれば意思決定もスムーズになるはずですよ。そして、決めたら行動あるのみ、実際に候補地に行つて、自分の目で情報収集する。そこで発生する悩みは『どこに移るか』の前向きな悩みで、『移る』こと自体の悩みではない。要はエイヤで決めて、腹括つて動くだけです。決めてしまえばやるしかないですから」。

まずは「動くこと!!」。厳し
い中に優しさがこもる熱いメッ
セージを頂いた。



「自ら考え、行動し、達成すること」を目標にした農業・里山体験プログラム。作業のハードルは高めたが、その分達成感がえられるように組み立てられている。参加者は広島都市圏のファミリーが多く、中でも小学生がたくさん参加している。